

事後評価結果（令和2年度）

担当課：河川整備課

担当課長名：川口 陽一郎

事業名	総合流域防災事業	河川名	がしまがわ 学島川	事業主体	徳島県
区間	上流： 徳島県吉野川市山川町流地先 下流： 徳島県吉野川市山川町岩戸地先	改修延長	L=1,615m		

事業概要

学島川は、吉野川河口から約30km地点で本川に合流する内水河川であり、流域面積約7.6km<sup>2</sup>、流路延長約5.1kmの一级河川である。流域は山地が約53%で平地が約43%を占めており、平地の土地利用は主に水田耕作地となっている。昭和36年9月洪水において著しい浸水被害が発生し、直轄事業により吉野川の合流部に排水機場が整備され、昭和42年度より河川局部改良事業、昭和51年度より小規模河川改修事業にて2,670mの改修を完了させている。平成5年度より総合流域防災事業として改修延長1,615mの河川改修を実施し、平成29年度に完成した。

【事業計画】

改修計画延長：1,615m、年超過確率：1/1.25

計画日雨量：110mm、計画高水流量：7.0m<sup>3</sup>/s

事業の目的・必要性

学島川では、豪雨等に起因する流域内の浸水により、家屋や農作物、及び交通途絶など多岐にわたる被害が発生し、流域住民が経済的・精神的負担を受けてきたことから、河川改修により浸水被害を軽減し、民生の安定と産業の活性化を図る。

事業概要図



社会経済情勢等の変化

・事業着手時から人口は減少傾向にあるが、世帯数は横ばいであり、事業実施に伴う大きな社会的変化はないものと考えられる。

事業効果

- ①事業の効果
- ・事業完了後、家屋浸水による被害は生じていない。また計画対象である概ね1.25年に1回程度発生する降雨が発生した場合においても、浸水被害が解消される。  
【浸水戸数】着手時：30戸 → 事業完了後：0戸  
【流下能力】着手時：0.9m<sup>3</sup>/s → 事業完了後：7.0m<sup>3</sup>/s
- ②事業実施による環境の変化
- ・自然植生の回復にも寄与する土羽構造としており事業完了後、自然環境の変化に関する問題は確認されていない。
- ③その他の事業効果
- ・地価変動下落幅の改善  
事業完成による浸水被害の軽減により地価下落幅が改善
  - ・水害による被害の軽減  
川島公民館学西分館（指定避難所）の浸水軽減  
山崎南污水处理場（下水道）の機能確保



	着手前	令和元年台風10号
24時間雨量	110	191
床上浸水戸数	1	0
床下浸水戸数	29	0



事業期間	事業化年度	H5年度	用地着手	H5年度	工事着手	H5年度	B/C (H24時点)	1.5
	完了年	H29年度						
事業費	H24評価時	13.0 億円	実績	14.7 億円	前回比	1.13		

課題と今後の事業への反映

【用地協力体制の事前構築による事業期間の短縮】  
同種事業の実施にあたっては、地元自治体との協力関係の構築や地元説明会の開催といった、用地交渉についての協力体制を整えてから事業を進めるなど、より一層の、事業期間の短縮による早期事業効果の発現に努める。